



「屋根裏にかける十字架」

(教育棟二階に展示中の「隠れキリシタン遺品収集」より)

医者が福音書を翻訳すると・・・

宗教学特任教授・宗教主事 小田 武彦

元東北大学医学部助教授で、岩手県大船渡市で開業医をしている山浦玄嗣(はるつぐ)氏が翻訳された『ガリラヤのイエス・コネ(イー・ピックス出版)』という福音書をご紹介いたします。長年、病気に苦しむ人に関わり、多くの方の最期を看取ってきた被災地の医者が、一人でも多くの日本人に「喜びの灯をともす」イエスの言葉を届けたいと、渾身の力を振り絞って新約聖書の中の四つの福音書を訳し直したものです。

「二〇一二年キリスト教本屋大賞」を受賞した本書は、イエスが出会ったさまざまな地方出身者たちや彼らの生きた時代背景が現代人にも理解できるようにと、わざと幕末から明治維新の頃に使われていた日本語を用いて訳されたユニークな福音書です。たとえば、会話以外の説明や描写には、当時の公用語「関東武家階級の言葉」が使われています。

イエスは、人々に説教をするときは公用語で語り、自分と同じガリラヤ出身の弟子たちと話すときには東北弁を使っています。イエルサレムの人々は京都弁、商人たちは大阪弁、ユダヤ地方の人々は山口弁、ギリシヤ人は長崎弁、ローマ人は鹿児島弁と訳し分けてあるので、登場人物の使う方言によって出身地や立ち位置が透けて見えてきます。

何よりも私がこの福音書に魅了されたのは、やっぱりそういうことだったのか、なるほど福音書は「喜びの便り」なんだと実感させられたからです。既存の訳語に引きずられることなく、ギリシヤ語原文にさかのぼって訳し直したからこそ実現できたのだと思います。

キリスト教を理解する鍵は、イエスの行動と言葉にあります。奇異とも見えるイエスの行動を説き明かす重要な単語の一つにスブラ

ンクニゾマイという動詞があります。イエスの行動の動機や、「たとえ話」の中で神が何を最優先しているかを示すためだけに使われている特別な言葉です。内臓や腸(はらわた)を意味する名詞スプランクノンを動詞化した言葉です。

一例として、マルコ福音書一章に書かれている出来事から、この言葉の使われ方を見てみましょう。当時、人々から忌み嫌われ見捨てられていた重い皮膚病を患っていた人と出会ったイエスは、まず手を差し伸べてその人に触れ、それから清めの宣言をして癒します。病気によって骨が変形し肌が醜くただれている人に、イエスがなぜ敢えて触れたのかを示す重要な言葉がスプランクニゾマイです。諸教派の教会が使用している聖書では、「深くあわれんで」「日本聖書協会『聖書口語訳』」とか「深く憐れんで」「同『聖書新共同訳』」「かわいそうに思って」「(いのちのことは)社『聖書新改訳』」と訳されてきています。私はこれらの訳に、どうしても「上から目線」を感じてしまい、違和感を拭えませんでした。それを山浦氏は「腸(はらわた)も干切れるほど気の毒に思いなさり」と訳しています。イエスが辛い立場に置かれた人と出会った、居ても立っても居られずに近づき、触れたり抱きとめたりするということが伝わってきます。

「聖書を読む」という響きがどうも苦手だという方には、ガリラヤのナツエラット出身のイエスとその仲間たちの姿を生き生きと描いた小説『ナツエラットの男』(ぶねづま舎)をお勧めいたします。「第二十四回Bankamuraドゥマゴ文学賞」を受賞した「目からうろこ」が落ちる」話題作です。

NPO 法人臨床パストラル教育研究センター主催

講演会



子供ホスピス
Sonnenhof Berlin ドイツ

テーマ：一人の子供の病気は、家族全体の痛み
～ 二歳半で突然白血病になった息子
残された弟（MAX）と母親の闘いとその芽生え～

講師：Heike Thümler（社会と子供ホスピスとの交流担当者）
家族の中で自分のフィーリングを自由に話すことの重要性。
白血病とがんの自分の子供はホスピスで命を得た。彼らは、今、生き残った
人々との連携をし始めた。

場所：聖マリアンナ医科大学病院 4階第2会議室
日時：2015年 4月8日(水) 18:00～

お問い合わせ
NPO 臨床パストラル教育研究センター 東京事務所まで
TEL 03-3700-3425 FAX 03-3700-3427 mail: tokyo@pastoralcare.jp
後援 聖マリアンナ医科大学病院
聖マリアンナ医科大学キリスト教文化センター

臨床パストラル教育研究センター講演会のポスター

4月9日
看護専門学校入学式

臨床パストラル研究教育センター
講演会（テーマ…一人の子供
の病気は、家族全体の痛み）へ
の協力（ドイツ語同時通訳…土
居由美）

6月13日
「カトリック大学キリスト教文
化研究所協議会」第28回連絡
議に力石センター長出席

【2015年度活動報告】
2015年4月8日
臨床パストラル研究教育センタ
ー講演会（テーマ…一人の子供
の病気は、家族全体の痛み）へ
の協力（ドイツ語同時通訳…土
居由美）

4月13日
新入生オリエンテーション

5月26日
新入生歓迎会



新入生歓迎会にて



新入生歓迎会の食事風景

6月25日
第6回「キリスト教文化に触れ
るつどい」(CCC倶楽部)
「ロト7に神の怒り！〜キリス
ト教音楽の楽しみと苦しみ〜」
講師 伊藤高章先生
(上智大学グリーンフケア研究所)



第31回カトリック医療関連学生セミナー in 岡山にて



8月8日～9日
日本カトリック医師会主催「第
31回カトリック医療関連学生セ
ミナー in 岡山」への参加



クリスマスの集い



病院で行われる看護専門学校学生によるキャンドルサービス

10月1日
機関誌「いぶき」82号発刊

教職員学内追悼ミサへの協
力・参加

11月30日

クリスマス・イルミネーション
点灯式及びクリスマスパーティ
ー

案内 土居由美氏

(キリスト教文化センター)

10月1日

「解剖ご遺体追悼ミサ」への協
力・参加

10月16日

第7回「キリスト教文化に触れ
るつどい」(CC倶楽部)

12月11日

第8回「キリスト教文化に触れ
るつどい」(CC倶楽部)

12月20日

聖マリアンナ医科大学看護専門
学校クリスマスの集い

10月2日

「創立者故・ステファノ明石嘉
聞博士と亡くなられたすべての

和の使者アツシジの聖フランシ
スコ」
講師 Sr. 重藤悠美子
(キリスト教文化センター)

「キリスト教と音楽 シュバイ
ツァーとバッハ」
電子ピアノ 手計順(医大2年)

上智大学グリーンフケア研究所集中実習受け入れについて

キリスト教文化センター 土居 由美

平成27年4月にキリスト教文化センターの規定が改訂され、キリスト教文化センターは「スピリチュアルケアに関する研究および講演会等の開催とともにスピリチュアルケアに関連する事項を業務として行う」となりました。

一方、平成26年4月に締結された聖マリアンナ医科大学と上智大学との包括連携協定、および同年10月1日に締結された「聖マリアンナ医科大学と上智大学とのグリーンフケア人材養成に係る個別協定」に基づいて、聖マリアンナ医科大学病院は上智大学グリーンフケア研究所・人材養成講座の集中実習を受け入れることとなりました。

こうした状況下、キリスト教文化センターは上智大学グリーンフケア研究所・人材養成講座、集中実習の受け入れを担当する部署としての活動を始めました。病院長の指揮下、看護部や緩和医療学（愛和病院）寄附講座をはじめとする様々な部署のご協力を得て、院内受け入れ態勢の整備・各種事務手

続き・実習生とのやり取りや学内での案内などを行っています。また、これを契機として、スピリチュアルケアに関するさまざまな資料・情報の収集なども始めています。

上智大学グリーンフケア研究所・人材養成講座の集中実習の受け入れは、春・夏年2回行われていきます。日曜日から土曜日までの7日間の実習日程のうち5日間が本学で行われ、この間、基本的に実習生5〜6名とスーパードッグ3名が本学で実習を共にします。内容はユニークなもので、オープニングに病院長による本学病院の紹介が行われた後、午前中は教員棟のセミナー室を拠点とした実習生間のグループワークが行われ、月曜日から木曜日の午後には、大学病院に入院しておられる方々をはじめとする患者さんと実習生がお会いしてお話をさせて頂くという体験が重ねられていきます。その他、金曜日午後には、本学スタッフによる講義の時間もありません。講義テーマは本学に一任され

ており、受け入れ第1回目は石キリスト教文化センター長が臓器提供と移植医療の普及の必要性を述べた後、土居非常勤講師が我が国において臓器提供が西欧諸国と比較して著しく少ない理由を、文化・宗教的な側面から考察しました。第2回目は、麻酔科の西木戸講師が、いくつかの具体的な症例を紹介し、実習生に共に考えてもらうという形をとりながら、臨床現場に生じる多様な課題について述べました。第3回目は小児外科の長江助教が、病院における動物による患者ケアの可能性について解説し、実際に本学病院の勤務犬「ミカ」を同伴して実習生に触れてもらう機会を作りました。ミカは実習生にもスーパードッグにも大人気で、セミナー室まで来てくれたミカに触れて癒されるという体験を実習参加者皆が味わいました。

現在、上智大学グリーンフケア研究所の集中実習は聖マリアンナ医科大学病院以外にも三つの病院で行われていますが、本院は病院全体が協力して実習を受け入れているという点が評価され、実習生から喜ばれています。



勤務犬「ミカ」
大天使ミカエルの名前から



上智大学グリーンフケア研究所の実習生の皆さん



キリ文でおしゃべりする学生



待降節の一コマ



お菓子のツリー作り



非常勤講師の先生と

キリスト教文化センターの日常

□ 本棚から □

次の本を購入しました。皆様のご利用をお待ちしています。

平成27年7月10日購入

古巣馨著

「ユスト高山右近」 ドン・ボスコ社

ピーター・ピオット著

「No Time To Lose」 慶応義塾大学出版会

平成28年5月27日購入

溝部脩著

『青年と読むマルコによる福音』 ドン・ボスコ社



電子ピアノを弾く学生



クリスマスの馬小屋・食べられたお菓子の家
アドヴェントカレンダー

Christian Culture Club (略称:CC倶楽部)の報告

昨年の「いぶき」でも紹介しましたが、キリスト教文化センターでは、2014年度から、新しい活動として「キリスト教文化に触れる集い: Christian Culture Club (略称CC倶楽部)」を始めました。このクラブはキリスト教の普及や信仰をめざすのではなく、純粹にキリスト教文化を楽しむことを目的とした講演ないしは音楽演奏などと、その後の軽食・雑談からなる会です。学生・教職員の方はどなたでも歓迎であり、学内の異業種交流的な役割を担えるようになることも期待しています。西洋を中心としたキリスト教文化は、現代の我々にも大きな影響を与えています。我々の専門分野である医学・医療はもちろん、その影響は科学・音楽・美術・文学・建築など、実に幅広い分野に及びます。CC倶楽部では、そのごく一部を、楽しみながら学んだり、楽しんでたりすることを目指しています。

第6回

「口ト7に神の怒り〜キリス

ト教音楽の楽しみと苦しみ」

(6月25日)

講師:伊藤高章先生

(上智大学グリーフケア研究所)

第7回

「アツシジ〜今こそ知りたい平和の使者アツシジの聖フランシスコ」(10月16日)

講師 Sr. 重藤悠美子

(キリスト教文化センター)

第8回

「キリスト教と音楽 シュバイツァーとバッハ」(12月11日)

オルガン 手計順(医学部2年)

案内 土居由美氏

(キリスト教文化センター)



CC倶楽部の歓談

臨床パストラル研究教育センター講演会 (テーマ:一人の子供の病気は、家族全体の痛み)

4月8日、ドイツのビュルン・シュルツ財団の Trümmer (テュムラー)さん一家による講演会が行われました。本講演は、臨床パストラル研究教育センターからキリスト教文化センターへの依頼により本学において開催されました。本センターは講演会の開催アレンジおよびドイツ語通訳(土居氏)で協力をしました。

講演は、「一人の子供の病気は、家族全体の痛み」と題するもので、ビュルン・シュルツ財団によって、ベルリンにドイツで初めて設立された子供ホスピス Soennehof (ソネンホーフ)の活動をめぐる内容でした。講演者であるテュムラーさんの次男マックスさんは、2歳の時に白血病と診断されました。闘病を余儀なくされた家族はそれぞれにさまざまな苦しみを負うこととなりましたが、ある夏、マックスさんと兄のフロリアンさんだけでシュルツ財団のキャンプに参加してからその闘病生活に変化が生じました。キャンプを通して、がんで治療中の子供も健康な子供も区別なく皆で互いに関わり、共に過ごすことの重要性を体感し、家族の関係が良い方向

に変化していったのだといえます。母親のハイケさんは、難病の子どもをもって苦しむ多くの家族にこの体験を伝えたいとの思いから、シュルツ財団で働くことを決意し、フロリアンさんと白血病を克服したマックスさんも、ボランティアとして同財団で音楽活動を通じた患者や家族に対する奉仕を行っています。講演会には主として小児科・小児外科に勤務する医師・看護師が参加しました。現場で働く医療従事者にとつて多くの示唆に富むものとなりました。

力石 辰也



講演会でスピーチを行うテュムラーファミリー通訳の土居さん

カトリック医療関連学生セミナーに参加して

医学部 6年 三原 治人

臨床実習で回っていた腎泌尿器外科学・力石教授（キリスト教文化センター長）のお誘いで、初めてカトリック医療関連学生セミナーに参加させていただきました。参加前は、キリスト教信者でもない自分が出席して違和感がないか心配しましたが、改めて医療、福祉に従事するという事の責任と自覚を促されました。

私が聖マリアンナ医科大学に進学したのは、母の強い勧めがあった事も一因でした。ミッシェルスクールに学んだ母は、マザーテレサ来日の際、母校でマザーにお会いし、その講演を拝聴して、深く傾倒していました。母は、「マリア様、いやなことは私が」、「世の光、地の塩となれ」という言葉を座右の銘にしており、私にもミッシェルスクールで学ぶ事を強く望んでいました。

今回こうしたセミナーに参加させていただいたのも何かのご縁と、印象に残った点について、述べさせていただきます。

本会で最も印象に残ったことは、明治の福祉家、石井十次先生の生涯を描いた映画です。学会の開催地・岡山は多くの福祉家を生

んだ土地ですが、その代表となるのが、石井先生です。現在の日本でも児童養護施設などは様々な問題を抱えています。福祉という概念がなかったと言ってもいい明治時代にこうした道を切り拓く事は、現代からは想像を絶する困難さを伴っていたと思います。先生は初め医師をめざし、医学の道に進まれます。しかしキリスト教の受洗と共に、医学を捨て、福祉の道に進まれます。同じ医学を学ぶ者として、この決断の重さを深く考えると共に、社会背景というものへの重みを考えます。

先生が活躍されたのは明治22年頃で、混沌とした社会が伺えます。篤志家の寄付を頼りに活動するほかにない時代、独立自活を目指して活動されました。私は今の福祉においても最も大切なのは、この「独立自活」という事だと思っています。この事が人間の自尊心に一番重要だと思えます。先生はそのことを明治時代にすでに実行されています。時代が進み、福祉が充実し、種々の問題は確かに解決されていると思いますが、新たな問題として貧困が連鎖し、何代にも続いていくような実例を目にす

ることがあります。先生の提唱された、教育と労働、これがいつの時代でも、解決の一番の得策の様に思えます。今回このセミナーに参加して、医師として病気を診る、患者さんを診るというだけではなく、その背景にある社会を見て、活動の幅の広い医師をめざすべく努力したいと思いました。

第31回カトリック医療関連学生セミナー 2015 in 岡山

関心のある方はどなたでも参加可能です

日時 2015年8月8日(土)受付9:00～ 9日(日)～13:00
会場 三木記念ホール 岡山市中区古京町1-1-10

テーマ 「今、望まれる医療と福祉とは」

講演 Dr. 末光茂 (旭川荘理事長)
「旭川荘の歴史とこれからの課題」
叶原士筆氏 (児童養護施設南野育成園 理事長)
「あなたに出会えてありがとう」
Dr. 菅原英次 (高梁市川上医療センター)
「在宅医療の現状と課題」
千葉茂樹氏 (映画監督)
「今、マザーテレサが問いかけるもの」

参加費 学生 3,000円 / 一般 10,000円



主催：日本カトリック医師会 (企画 広島支部)
後援：日本カトリック医療施設協会
日本カトリック看護協会

★一般の方は、番台先の手配を各自でください。



学会の合間に後楽園で

大野教会



文と絵 岩下光幸 (キリスト教文化センター)

丘陵地の静かな森の中にひっそりとたたずみ、一見民家を思わせるようなこの素朴な建物は、長崎市内から車で1時間ほど離れた西彼半島西岸の下大野町にある古い教会である。

この教会は、旧西彼半島外海町にあるカトリック出津教会の巡回教会として、上浦・大野地区の信徒のために、ド・ロ神父が設計し、信徒の奉仕によって1893年(明治26年)に建てられた。

2008年には国の重要文化財に指定され、ユネスコ世界遺産暫定リスト「長崎教会群とキリスト教関連遺産」の一つにもなっている。この教会は、ド・ロ神父が独自に考案された「ド・ロ壁」で地元の自然石を用い、漆喰で固めたものでできているのが特徴である。正面は強風を避けるために壁とし、側面から出入りする造りとなっている。

キリ文便り(編集後記)

普段は静かなキリスト教文化センターは12時30分になると賑やかになってきます。午前中の授業を終えた学生さんたちが、おしゃべりに来たり、ご飯を食べに来たりするからです。常連さんもいれば、初めて立ち寄ってくれる人もいます。

平成27年からは、キリスト教文化センターは看護専門学校を対象とする組織であることを規定で明確化したこともあり、看護専門学校の生徒さんも訪れてくれるようになりました。彼ら・彼女らはキリ文でお茶を飲んだり、お菓子を食べたりしながらリラックスするとともに、息抜きの会話をし、時には真剣な議論をしたりもしています。新入生歓迎会・クリスマス会などの行事もさることながら、何気ない日常の中に、キリ文が学生さんたちに受け入れられているのを感じます。

今号の「いぶき」の編集でも、これらの行事や日常を記録した写真を掲載しようと思いましたが、良い写真が少ないことに気づきました。キリ文のスタッフも行事や日常を楽しんでいて、写真を撮ることを忘れてしまっていたのかもしれないですね。



学生とセンター長

発行 聖マリアンナ医科大学キリスト教文化センター
 〒216 8511 川崎市宮前区菅生2 16 1
 編集 力石辰也
 印刷 榊城南印刷センター
 ○四四(九七七)八二二(代)